

I . 沿革と目的

1 . 計画策定に至る経過

2 . 計画の目的

3 . 検討体制

(1) 委員会組織

(2) 市役所内における本部会議等の設置

(3) 住民説明会の開催

1. 計画策定に至る経過

一関市本寺地区は、かつて「骨寺村」と呼ばれ、中尊寺経蔵別当領の荘園であったことが知られており、近年、荘園としての中世農村の景観要素が残る地域として注目され、一関市では具体的な取り組みとして、遺跡の所在確認を目的とした国庫補助事業による発掘調査を平成11年度より開始した。

一方、平成13年4月に、「平泉の文化遺産」が世界遺産の暫定リストに登録されたことを契機として、文化庁や岩手県教育委員会は世界遺産登録を目指した取り組みを開始した。その取り組みの中で、平成15年に一関市の骨寺村荘園遺跡が、「平泉の文化遺産」の推薦候補地のひとつとして挙げられた。これを受けて、一関市は、中世の村落景観を描いた絵図に記された自然や寺社などが大きく変わることなく良好に保たれていることから、骨寺村荘園遺跡として国に史跡指定の申請を行い、平成17年3月に、本寺地区の9つの地区が史跡に指定された。

加えて、本寺地区は、伝統的な農村形態を色濃く残しながら、日々の営みが現在も継続されている地区としても知られており、平成15年に文化庁がまとめた「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」の報告の中で、重要地域として挙げられた全国180地域のひとつに含まれ、文化財として保護の施策を講じる必要があるとされた。世界遺産の中でも「文化的景観」の概念が導入され、我が国においても、平成16年の景観法の制定や、平成17年に一部改正された文化財保護法に重要文化的景観が位置づけられるなど、良好な景観の形成、文化的景観の保護についての法制度の充実・強化が図られてきている。

このことから、本寺地区の農村景観の維持と地域営農の両立を図り、さらには世界遺産登録を確実なものとするため、当市では、平成17年度から重要文化的景観の選定の申出に向けた取り組みを進めてきており、このたび、文化庁文化財部記念物課及び岩手県教育委員会、骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員会の指導・助言のもと、「一関本寺の農村景観」保存計画を策定するに至った。

なお、平成17年9月に誕生した新一関市では、平成20年の世界遺産登録を目指して、文化振興課内に世界遺産推進係を新設して体制を整えた。現在、文化庁及び岩手県教育委員会の主導のもと、他の核心地域（中尊寺・毛越寺・無量光院跡・柳之御所遺跡・金鶏山・達谷窟・長者ヶ原廃寺跡・白鳥館遺跡）の所在する平泉町や奥州市とともに、各種事業を推進しているところである。

2. 計画の目的

本計画は、中世の村落景観を描いた絵図に記された自然や寺社などが、良好に保存されているとともに、伝統的な農村形態を色濃く残しながら日々の営みが継続されている稀有な文化的景観である「一関本寺の農村景観」を保存・活用し、次世代に継承することを目的とし、一関市における文化的景観の保護の方針を定め、広く国民の文化向上に寄与しようとするものである。

3. 検討体制

保存計画の策定にあたっては、有識者と地元住民で構成する委員会組織と市役所内部に設置した本部会議等で検討し、また、地元での住民説明会を開催するなどして策定した。

(1) 委員会組織

骨寺村荘園遺跡の調査研究と整備について協議を行うため、平成15年8月に、骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員会を設置した。この委員会は、中世史、考古学、農村計画、歴史地理、造園に係る有識者5人と、地元の代表者4人、関係機関等を含む12人で構成される。保存計画の策定に際しては、平成17年度に、委員会を4回開催して内容の検討を行った。事務局は、一関市教育委員会文化振興課が担当し、関連業務を株式会社文化財保存計画協会に委託した。

骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員名簿

	氏名	役職等	分野
委員長	大石 直正	東北学院大学文学部名誉教授	中世史
副委員長	広田 純一	岩手大学農学部教授	農村計画
委員	吉田 敏弘	國學院大学文学部教授	歴史地理
〃	佐々木 邦博	信州大学農学部教授	造園
〃	工藤 雅樹	東北歴史博物館館長（福島大学文学部名誉教授）	考古学
〃	煙山 義史	岩手県農林水産部農村計画課企画調査担当課長	農林水産行政
〃	佐々木 雄康	一関地方振興局農林部農村整備室長	農林水産行政
〃	小野寺 啓	一関市文化財調査委員	郷土史
〃	佐藤 勲	本寺地区地域づくり推進協議会事務局長	地元
〃	佐藤 幸蔵	巖美8区長	地元
〃	高橋 繁吉	巖美9区長	地元
〃	佐藤 武雄	巖美10区長	地元
協力員	本中 眞	文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官	
〃	中村 英俊	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課・世界遺産担当課長	
アドバイザー	斎藤 邦雄	平泉町教育委員会世界遺産推進室長	

(2) 市役所内における本部会議等の設置

一関市は、平成17年9月に新設合併により、新一関市となったが、世界遺産登録に向けた新しい組織として、教育委員会内に文化振興課を新設し、世界遺産推進係を設置し取り組むこととした。また、平成17年11月には、市役所内に助役を本部長とする「世界文化遺産登録推進本部」を、また、教育部長を班長とする「世界文化遺産登録推進プロジェクトチーム」を設置し、検討を進めた。平成17年度には、保存計画策定に向けてそれぞれ2回ずつ開催し、検討を行った。

この他にも、保存計画に係る具体的な内容については、景観や農地整備に関係する各課と、随時、協議を重ね内容の調整を図った。

(3) 住民説明会の開催

住民説明会は、文化的景観保存計画の対象地区内の各地区で開催し、保存計画の説明を行うとともに、ご意見を頂戴するなどして、内容に反映させた。

「一関本寺の農村景観」保存計画策定に係る経過一覧

年月日	項目	年月日	項目
平成17年4月8日	世界遺産関係市町村景観打合せ会	平成17年12月7日	庁内関係課会議
平成17年5月10日	庁内調整会議	平成17年12月14日	文化庁協議
平成17年6月2日	住民説明会	平成17年12月14日	庁内関係課会議
平成17年6月27日	第1回骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員会	平成17年12月16日	庁内関係課会議
平成17年7月22日	文化庁調査官現地視察	平成17年12月19・20・21日	住民説明会及び意見交換会
平成17年8月4日	文化庁協議	平成17年12月26日	一関市が景観行政団体になる
平成17年8月9日	庁内調整会議	平成18年1月5日	庁内関係課会議
平成17年8月25日	文化庁調査官現地視察	平成18年1月11日	庁内関係課会議
平成17年8月31日	文化庁協議	平成18年1月13日	第2回世界文化遺産登録推進プロジェクトチーム会議
平成17年9月7日	第2回骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員会	平成18年1月16日	第2回世界文化遺産登録推進本部会議
平成17年9月20日	合併により新一関市誕生（教育委員会文化振興課世界遺産推進係を新設）	平成18年1月16日	住民説明会及び意見交換会
平成17年9月22日	庁内関係課協議	平成18年1月18日	庁内関係課会議
平成17年9月26・27日	住民説明会及び意見交換会	平成18年1月19日	文化庁協議
平成17年9月27日	住民説明会及び意見交換会	平成18年1月25日	第4回骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員会
平成17年10月11日	文化庁協議	平成18年2月13日	文化庁協議
平成17年10月26日	庁内関係課協議	平成18年2月21日	庁内関係課会議
平成17年10月27日	住民説明会及び意見交換会	平成18年2月22日	文化庁協議
平成17年10月28日	庁内関係課会議	平成18年2月28日	庁内関係課会議
平成17年10月28日	住民説明会及び意見交換会	平成18年2月	「本寺地区景観計画」策定
平成17年11月8日	文化庁協議	平成18年3月7日	文化庁協議
平成17年11月11日	第1回世界文化遺産登録推進本部会議	平成18年3月23日	「一関市本寺地区景観計画による届出行為等に関する条例」議決
平成17年11月17日	第1回世界文化遺産登録推進プロジェクトチーム会議		
平成17年11月24日	第3回骨寺村荘園遺跡調査整備指導委員会		
平成17年11月28・29日	住民説明会及び意見交換会		